

英語研修を通じて

1) パースでの生活

私たちが空港から出たとき、とても暑く眩しかった。パースは基本的に雲ひとつない快晴だった。気温は日中で 35℃越えは当たり前で日本のようなじめじめとした暑さではなく、乾燥していて日光を直接浴びているといったような暑さであった。パースは町全体がきれいだった。道路が広く、どの家も 1 階建てで家の前には芝生があり景色が広々としていてとてもきれいだった。また、公園が多いため自然が豊かだなと感じた。パースの人たちはとても親切で困ったことがあるときに尋ねると丁寧に教えてくれる。



オーストラリアのバス事情には驚かされた。日本と全く違うからだ。オーストラリアではバスに乗った際、運転手に挨拶をするのだ。さらに、降りるときもありがとうと言ってバスを降りるのだ。日本ではなかなか見ない光景だったのでオーストラリアのこの習慣は日本も見習うべきだと思った。オーストラリアでは市民のバス運転手への信頼度が高いと思うことが多かった。確かにとても親切なのだが、カーティン大学から駅に向かうバスに乗っていたら“last stop”と言われ何もない知らない場所で降ろされた。しかも、けっこう遅い時間で雨は降るし、次のバスがいつ来るかもわからないし、ここがどこかもわからない状態で困惑した。“夜は危ないから日が沈む前には帰ってきて”とホストマザーに言われていたのもすごく焦った。結局帰れたがホストファミリーにすごい迷惑をかけてしまった。あの運転手の“last stop”はいまだに謎だ。

パースには 24 時間営業の店や歩道のところに自動販売機はない。さらにパースやパ

ース近郊のお店は5時には店を閉めるため授業が終わり遊びに行くときはあまり時間がないかもしれない。しかし、毎週木曜日はパース近郊のお店が、毎週金曜日はパース市内のお店が通常より長く開いているので木曜日と金曜日以外の平日よりは長く楽しめる。土曜日・日曜日はリラックスするというのが基本らしくお昼から開きだすお店が多い。そのため平日よりも電車やバスの本数が少ないので気を付けなければならなかった。オーストラリアは物価が高い。水も2\$以上するしコーラなどの飲料水は4\$する。フリーマントルなどの観光地では昼食代だけで10\$越えはふつうである。サンククリーンもとても高い。大学内やドラッグストア、観光地にも売ってはいるがとても高く場所によっては2倍くらいすることもあつたため日本で買って持って行ったほうがいいと思う。お土産はパースやフリーマントルに売っているがお店によって安かったり高かったりするののでいろいろ見て回るのを勧めする。

2) 英語研修プログラムに関して

私たちはELOCOS classという英語の授業に参加した。午前と午後に授業がひとつずつあり、午前は10時から12時まで、午後は13時から15時までだった。毎週月曜日と水曜日は午前と午後が授業で、火曜日・木曜日・金曜日の午前は授業をやり午後はアクティビティーを行い、ロットネス島に行った2週目の土曜日以外の休日はフリーという非常に恵まれたプログラムだった。アクティビティーはCaversham Wildlife ParkやKings Parkに行った。また、AborigineやAboriginal cultural、オーストラリアの多文化についての講義を聞いたりした。教室に入るといろんな国籍の人がいてすごく新鮮だった。午前の先生がイギリス人で午後がカナダ人でクラスには私を含め日本人が5人、中国人が4人、ベトナム人が1人、サウジアラビア人が1人、リビア人が2人いた。2週間目から日本人が1人減ったが同じ時に日本人が3人入り私がクラスを卒業するときは日本人が7人になっていた。日本は春休みということもあり日本からの短期留学生が多かった。クラスメイトは外国人がほとんどだろうなと思ひるまなように構えていたが、いざ入ると外国人が多くてひるんでしまった。(最初の授業のとき、見た感じ日本人が私を含め3人だと思っていたが、授業のときに英語で会話して外国人だと勘違いしてしまっていた日本人が2人いることがわかった。)リビア人(女性)は口元や頭まで黒い布で覆っていて目しか見えなかった。また、サウジアラビア人(女性)も頭を布で覆っていて文化の違いを見ることができた。授業の初日は先生の言うことがあまり聞き取れなくて本当にやっつけか心配になったけど、だんだん耳も慣れてきて聞き取れるようになりリスニング力がついていくことが実感できた。授業では文法はもちろん、グループワーク、教科書のリスニングの問題などをやった。グループワークのときに会話をして仲良くなり、相手の国の文化・宗教のことを教えてもらった。授業を受けて感じたことは、自分が思っていることを相手に伝えるのはとても難しいということだ。お互いに異なる母国語を持ち、知っている共通の言葉で相手の言いたいことを理解するのはとても大変だった。アクセントの位置やイントネーションの違い、その国独特の訛

りで伝わらないことが多々あった。しかし、お世辞でも上手と言えない英語で一生懸命話して、自分の言いたいことが伝わったとき本当にうれしかった。日本では言いたいことが伝わらないことなどなかったため、とても苦労したが貴重な経験ができたと思う。



3) ホストファミリーのこと

私はカーティン大学までバスと電車を使って45分のところにあるホストファミリーの家にお世話になった。私のホストファミリーは親がタイ人で子供がオーストラリア人だった。子どもたちは見た目がアジア系の顔立ちだがオーストラリアで生まれたため国籍がオーストラリアだと言っていた。ホストファーザーとマザーは留学経験がありホームステイも経験したことがあったらしくとても親切だった。ホストファミリーは宗教には属していなかったが、ブッタを崇拝していた。ホストファーザーは朝と夜にお経を唱えていて、毎日パソコンからお経がながれていた。ホスト先には8歳と6歳の子がいた。初日は距離があつたが2日目から打ち解けてきてそれから毎日一緒に遊んだ。まだ子どもだから仕方ないのだが手加減を知らないため、ちゃんばらごっこをしているときに鈍器で叩いてきたときはさすがに焦った。また、お土産でけん玉をあげて遊び方教えただが、ちょっとリビングを離れた隙に分解されていてけん玉の赤い玉のところを投げられたのはショックだった。お土産選びは慎重にしないと怪我をするかもしれない。

4) 英語研修で感じたこと

日本にいるときは伝えきれなくて理解されなかったことはなかった。しかし、外国人相手にうまく伝わらないことが多く、そのような経験をして伝えることがどれだけ大変か知ることができた。また、授業で私が当てられているのに他の外国人が答えを言う場面を何度か見て、自分から積極的に行動しなければ得られるものも得られない

など痛感した。外国の文化の中で過ごしたことにより外国の文化に興味を持てるようになった。外国のいいところをたくさん見つけることができた。また、以外にも日本のいいところも気づくことができた。外国で体験したことと照らし合わせて日本文化の短所・長所に初めて気づくことができたのは思わぬ収穫だったがとても大事なものに気づけたと思う。

5) 英語研修の経験を今後どう生かすか

オーストラリアについて早々感じることは英語が話せないということだ。クラス内でもそうだったが日本人のほとんどが文法はある程度できるが話すことができなかった。英語の勉強の仕方を変え、英語がスムーズに話せるように勉強したい。生まれて初めて海外で生活をして外国人との交流を通じ国際的な視野が広がり物事に対する考え方が変わった。どう生かせるかまだわからないが、この見るものすべてが新しく充実した研修が今後の自分の財産になることは間違いないと思う。

6) その他

今回の研修でホストファミリーにはいろいろ迷惑や心配をかけてしまったがとても親切な家族でさまざまなことを学ぶことができた。ホストファミリーにとっても感謝している、また、この研修がきっかけでできた友達や同じステイ先の人、交流できた人、都市大生にも感謝している。今回このカーティン大学英語研修に参加するにあたって、いろいろな人に協力してもらった。親や祖父母、東京都市大学海外研修支援会、東京都市大学海外研修支援会の書類の推薦状にサインしてくれた先生方、研修を企画してくれた方々、研修のために動いてくれた方々、カーティン大学の方々にも心から感謝の意を示したい。

